トップの視点

弁護士法人　山本法律会計事務所
弁護士・税理士　山本　洋一郎氏

平成23年8月10日NHK総合テレビの女優竹下景子さんファミリー特集に竹下さんと出演し、彼女の亡父竹下重人弁護士が草分けとなった税務訴訟の分野で、その現在の第一人者が九州の小都市にいると職場が放映された山本法律会計事務所の山本洋一郎所長。中津で開業30年。現在、仙台、東京、大阪、京都、岡山、徳島など全国各地から訴訟依頼があり飛び回るかたわら、地元でも幅広い活動をする山本氏にお話を伺った。

一、転期と同僚

「最初は行政官僚をめざしていました。転期が訪れたのは大学紛争の時。行政官僚志望から衆議院法制局参事へ、さらに弁護士へ。

最後に郷里中津で開業へと転身。その節目節目で先輩、同僚にめぐまれました。」と振り返る。北部小学校、中津中学校時代は「ケンカで負けた記憶がない」と本人が言うほどの肉体派。中津北高時代は、勉強に集中。兄二人が東大、慶應大の経済学部へ進んだので東大法学部へ。鳩山邦夫君、前通産省局長・防衛庁装備局長中村薫君、前厚生労働省老健局長堤修三君、朝日新聞編集委員・テレビ朝日コメンテーター萩谷順君、日経新聞論説委員渡辺俊介先輩らと友達になり、行政法を専攻し大学四年のとき国家公務員上級職試験に合格し通産省に内定。感ずるところあって立法活動をつかさどる衆議院法制局参事へ。

二、転期と先輩

法制局では、三木武夫総理の指示を受け田中金脈について国会国政調査権の調査に従事。文教委員河野洋平議員の指示を受け街並み保存・埋蔵文化財・民俗文化財などの文化財保護法大改正、わが国初の公務員育児休業法の制定に従事。社会党政審会長の指示を受けわが国初の個人情報保護法案の起案、公明党政審会長の指示でこれもわが国初の環境アセスメント法案の起案に従事と大忙し。他に自治省若手官僚らとの地方公務員法・地方自治法の研究などに携わり、夜中まで仕事をしたと振り返る。

現在の「地方自治・地方公務員法事件」の下地ができたとのこと。

もっと現場の仕事をやりたいと弁護士に転身。その卵の司法修習生のときに、現在の弁護士業務の基礎を作っていただいた先輩に出会ったとのこと。第一に、ロッキード事件主任検事・東京地検特捜部長の河上和雄先生（現在、日本テレビ顧問弁護士）から、刑事訴訟の最先端の指導を受け、現在の「刑事事件」の下地ができたとのこと。第二に、東京地裁判事の松沢智・山田二郎両裁判官（後に大学教授、日本税法学会等の第一人者となる）から、税務訴訟のイロハの指導を受け、現在の「税務訴訟事件」の下地ができたとのこと。第三に、弁護士となってから、東京銀座の芦刈法律事務所の芦刈直巳先生から、上場企業・政治家等相手の事務所のナンバー4として指導を受け、デビィ夫人対朝日新聞（築紫哲也朝日ジャーナル編集長）名誉き損事件、独禁法違反石油会社カルテル事件、KDD贈収賄事件など現在の「企業法務」などの下地ができたとのこと。

三、中津の事務所開設へ

昭和57年春に父（税理士山本鮮一）の一周忌を期に郷里の中津へ戻り、跡を継いで税理士登録もし山本法律会計事務所を開設。企業法務、医療事件、建築紛争事件、労働事件、民事再生事件、談合事件、収賄事件など幅広く経験、最近は裁判員裁判にも挑戦しているとのこと。開設当初から、当時わが国でも数少ない法律と税務の複合分野のできる事務所を目指そうと日本税法学会で活動開始し、竹下重人弁護士らと親交。日本弁護士連合会の税制委員にもなり数少ない税務訴訟の専門弁護士集団の中でもまれ、現在、税制委員長として、政府税制調査会への委員の派遣、国税庁幹部との意見交換会の座長などになり、最近では、納税者の権利保護法案の制定のため、古川元久国家戦略大臣・総理官邸や野党三役らと連携中。また、被災者が東電から受取る原発賠償金を非課税とする法案づくりにも取組み中とのこと。また学会活動では、福岡大学大学院で税法学の講義を三年続け、京都大学では、全国の学者を前に最高裁で勝訴した判決の講義をするなどの活動を行い、実務のかたわらこれまで学会論文を20本近く発表したとのこと。

四、中津とのかかわり

また地元中津市とも深くかかわってきたとのこと。永年にわたり高齢者・障害者施設の顧問弁護士や、医師会・歯科医師会の顧問弁護士・税理士、中津商工会議所では、溝上安弘会頭時代に商調協副会長を務め地元商業界と大型店の出店調整にほん走。安藤元博会頭時代には顧問弁護士となって機構改革・職員改革に取り組み、地元企業のための大分北部中小企業支援センターの立ち上げに従事し、地元企業のための特許・商標権などの専門家がいないと聞くと中津北高後輩の弁理士の相談日を設けるなど。愛宕久和会頭時代に入ると、更なる職員改革を進め、福沢経営塾で講義をするなどしているとのこと。

福沢経営塾での講義

また鈴木一郎中津市長時代には市の顧問弁護士として、情報公開条例の制定、組合活動正常化のための地労委争訟に勝訴し地裁訴訟にも実質勝訴。ゴミ収集・市営ガスの各民営化に取り組み。前出の通産官僚中村君による地方拠点都市の指定等に尽力。競馬場廃止に伴う訴訟に勝訴。ダイハツ進出用地の確保等のため各種相談に応じ訴訟に従事したとのこと。また地元中津市漁協のために港湾埋立漁業補償金分配仮処分事件に勝訴。また、中津市民病院については、その国立病院からの移譲のための審議会会長、移譲による体制整備のための審議会会長となってその誕生を導き、中津市民病院となってからは経営改善等の審議会会長となって、病院の存続・充実、医師の確保、職員の雇用継続・国からの退職金支給、地元医師会との連携などに九大医学部杉町圭蔵医学部長・信友浩一大学院教授らとほん走し、その姿は後に、NHK総合テレビ「クローズアップ現代」で放映されたことは有名。最近でも、自治体病院経営のノウハウを知りたいと河野太郎衆議院議員、平塚市議らが山本事務所を訪問されたとのこと。

五、大分県とのかかわり

大分県とは、平松知事の任命で豊の国づくり塾大分県運営委員としてムラおこしマチおこしに県下をかけ回り、溝口薫平・中谷健太郎・南こうせつ氏らと親交を深め、広瀬知事の任命で大分県建築紛争審査委員等を務めたとのこと。八年前に大分県弁護士会会長に選出されると、高齢者・障害者のための救済センターを立ち上げ、県警と協力して犯罪被害者のための救済センターを立ち上げ、県知事・県警本部長との三者協力のもと民事暴力・行政対象暴力協議会を立ち上げる、など大忙し。また、全くの個人的趣味で、市内小平の椿まつりの立ち上げ・支援。ネットワーク21文化案内人ゼネラルサポーターと名乗って、女性陣として、宇佐・国東半島を世界遺産にする運動のためテレビキャスター小宮悦子さんとのパネルディスカッションを企画、まちづくりと建築社会学の青森大学教授見城美枝子さん、経済学の関西大学教授白石真澄さん、精神科医の香山リカさん、歌手の千葉紘子さんを招いての講演会、加藤登紀子さんのコンサートを企画。男性陣として、危機管理専門家小川和久さん、徳田靖之ハンセン病弁護団長のほか、前出の萩谷順、渡辺俊介、河上和雄、信友浩一さんらの講演会を企画。最近では、歌舞伎界の片岡秀太郎・仁左衛門（孝夫）・愛之助、孝太郎さんらの招へいなどでも活動中。

六、活動の理念

他方で、足許の事務所の体制強化・地元へのサービス充実のため、弁護士、税理士を補充し（現在、弁護士・税理士四名、税理士一名）、複合的サービス提供のため他業種事務所との連携（監査・経営分析等のため後藤利治公認会計士、登記等のため吉田清勝司法書士、特許・商標権等のため安倍逸郎弁理士の各事務所と一〇年来の連携）を強めてきたとのこと。

「これからは、複数の弁護士が充実したサービスを提供ができる事務所であること、他の専門業種との複合したサービスを提供できる事務所であること、地方に拠点を置きながら広域圏のニーズに対応できる事務所であること、この三つの目標を掲げ、いわば専門分野を持ちながら複数の診療科目を持った広域拠点病院並みの事務所という理念を貫きたい」と語る。山本氏は、この理念を胸に地元中津にこだわり、日々、最前線に立つ。

中津 蘭学とパイオニア精神

6　奥平昌高　夢多き蘭学大名

特定医療法人
川嶌整形外科病院
理事長
川嶌　眞人氏

奥平昌高画像　自性寺蔵

中津藩主・奥平氏は、戦国時代は今川氏に属し、一時は武田氏に仕えた。長篠の合戦で徳川家康に応じて功績を挙げた奥平信昌は、家康の長女亀姫を娶り、関が原の役の後、京都守護職となり、美濃国10万石を賜った。その後奥平氏は下野国宇都宮、下総国古河、出羽国山形、丹後国宮津などを経て、享保2年（1717年）昌成の時に豊前中津10万石に移ってきた。

昌成を中津城における初代城主とすれば、三代目にあたる昌鹿の時代に、蘭学にかかわるある事件が起こった。昌鹿の母親が江戸で下腿の骨折をした時、なかなか骨癒合せずに困っていたところ、たまたま長崎出島のオランダ人一行の江戸参府（年に一回江戸に上ること）に随行していた大通詞（通訳）でもある吉雄耕牛という蘭方医に治療してもらったところ、鮮やかに全治したことから、昌鹿が蘭学に興味をもち、藩医・前野良沢を長崎に留学させたことがきっかけとなって中津藩と蘭学の関係が始まった。

四代目藩主・昌男は24歳で夭折し、後継ぎの男児がいなかったため、薩摩藩・島津重豪の次男、富之進6歳を12歳と称して跡目を継がせ、奥平藩はお家断絶を免れた。

五代目を継いだ昌高は天命元年（1781年）11月4日島津重豪の次男として江戸に生まれた。父親の重豪は進取の気性に富み、蘭学に関心を持ち、長崎のオランダ商館を訪れたり、シーボルトとも交際、藩校・造士館や演武館を建てて文武を奨励、天文館を建てて、天体観測や暦学の研究にあたらせた。また医師の養成にも力を注ぎ、医学院を建設したり、数ヶ所に薬草園を設けたりした。歴代のオランダ商館長、テュティング、ズーフ、ブロムホフとは度々書信を交換したことでも知られている。

このような父親の血を引く昌高は、同様に生来豪放闊達で歴代奥平藩主の中でも第一等の人物とされ、寛政2年（1790年）7月、片端町（現在の小幡記念図書館のある所）に進脩館という藩校を開設して、文武両道を奨励した。初代教授に倉成龍渚を抜擢し、人材の育成に力を注いだ。龍渚は柴野栗山、頼春水、樺島石梁、上杉鷹山らとも交流し、弟子の中には幕末三大蘭学者と言われた坪井信道、九州で最初の本格的な人体解剖を行った中津村上医家七代目の村上玄水などが存在する。

昌高は父重豪の影響によって、蘭学を自ら率先して学び、出島の商館長ズーフからはフレデリック・ヘンデリック（Frederik Henderik）の蘭名をもらい、その蘭名で下関の本陣伊藤家には蘭文詩が残っている。詩の内容は以下のようなものである。

「下関オランダ宿主の勧めによりて、ヘンデリック・バロン・デン・ベルグ（当主伊藤盛永のこと）はオランダ商売の繁盛を希望する一人なり。彼は我等と同じオランダ物品の愛好者なり。故に彼はオランダ船が日本に年々渡来することを望む。文政3年　豊前国中津の君侯にして城主なるフレデリック・ヘンデリック誌す」

同じ宿に、江戸参府の途中に宿泊した商館長コック・ブロンホフは、この蘭文詩に感激して以下のような賛詩を残している。

「参府の途中において下名が、豊前国中津藩主フレデリック・ヘンデリック閣下に奉る。余は再度貴国に来たり、閣下自ら詩作にて書かれたる見事な蘭詩を拝見し、痛く感動せり。是れ閣下がオランダ語に熟達せらるる証にして、閣下が我が国風を慕われ万事にその嗜好を示さるるは、実に比類を見出し難し。願わくはオランダ趣味をやめざらんことを。是れ永く嘱望するに堪えざるところなり。1982年2月18日　下関にて　オランダ獅子士勲章拝領　コック・ブロンホフ」

昌高が単なるオランダの珍品を集めるだけの蘭癖大名でなかったことは、この文を見ても分かるように、オランダ語を本格的に学び、しかも日本中に蘭学を語学のひとつとして、普及させようとしたことにある。

昌高は前野良沢たちが解体新書を出版するにあたり、辞書がないためにいいようのないほどの苦労をしたことを知っており、蘭学普及のためには、辞書が絶対に必要であると考えていた。

辞書編纂の最初の事業は、長崎の通詞・馬場佐十郎の協力のもとに、家臣の神谷弘孝（源内）に命じて、日本で最初の和蘭辞書である『蘭語訳撰』を編纂させ、享和7年（1810年）に刊行したことである。この辞書は、大分大学の鳥井裕美子氏の研究によると、オランダのライデン大学日本語講座初代教授ホフマンによって、オランダ人が日本語を学ぶ時に活用されていたことが明らかになっている。中津市が近年購入したものには、オランダ人の書き込みも見られ、大いに役立ったことが示されている。

昌高はさらに蘭和辞書の編纂にも意欲を示し、家臣の大江春塘に命じて『中津バスタード辞書』を編纂させ、自らも序文を書いて、文政5年（1822年）に刊行した。所収字数は7249字と、当時としては類書としてもひけをとらず、日本各地やライデン大学でも発見されている。中津では村上家に下巻のみ保存されており、中津藩でも大いに活用されたものと思われる。

シーボルトの『参府旅行中の日記』の中には、昌高とシーボルトの親密な交際が生き生きと記録されている。昌高はシーボルトと交流するために、45歳で隠居し、シーボルトと親しく交際することを希望したとシーボルトは記述している。以下にさわりの部分だけを示す。

「オランダ風のものなら何んでも感激して好意を抱き、彼ら同士で、またわれわれをも交えて破格のオランダ語を話し合っている。…ご隠居はすべてのものを例外なくよくご存知で、またいろいろな時計を出して見せられた。…夕食時にはお出ししたものをおいしそうに口にされ、夜更けてから辞去された。…夕方、中津のご隠居が全くのお忍びでみえ、夜の12時までおられた。音楽や歌やダンスなどをした。要するにわれわれはご隠居に楽しんでいただくようにあらゆる努力をした。みんな私の部屋でワインを飲み、本当に心から愉快な時を過ごした。…候は、私が候を自然科学ならびに医学の門人のうちに加え、候のために非常に危険な日本の疾患についての簡明な治療法を、自分のために編纂するように切望された。」

幅広い国際感覚の持ち主であり、蘭学を学問として日本中に普及させた比類のない蘭学大名であった昌高は、安政2年（1855年）74歳で没した。法名は「龍徳院殿無方道應大居士」東京品川の清光院に葬られている。

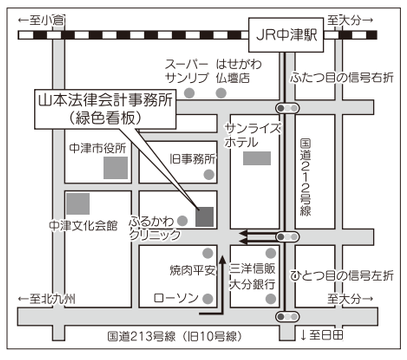
法務・税務・会計・監査等
幅広いサービスを一カ所で提供

弁護士法人　山本法律会計事務所（山本　洋一郎税理士事務所）

所在地　〒871-0058　大分県中津市豊田町6番3号　山本ビル
E-Mail　yochan.yamamoto@nifty.com　TEL　0979-24-4321
URL　http://www.yochan.or.jp/　FAX　0979-24-5594

弁護士業務
一般：企業法務　民事　刑事
特殊：労働　医事　建築　倒産　行政

税理士業務
一般：記帳　会計　申告
特殊：事業計画　法人成り

M＆Aと税
企業再生と税
相続・離婚と税
調査立会・異議申立
審査請求
税務訴訟・査察

複合業務